

広がる風疹 妊婦ら注意

専門家周囲に予防接種呼び掛け

風疹の感染が全国で拡大する恐れがある。関東地方を中心に広がっていたが、広島や山口県でも8月以降患者数が増えている。最も注意したいのは、妊娠初期の女性への感染だ。生まれてくる子どもに白内障や難聴などの影響が出る可能性がある。専門家は、身近に妊婦がいる人はもちろん、免疫のない人が多い30～50代の男性にも予防接種を呼び掛けている。

(鈴木大介)



「ワクチン接種や抗体検査を希望する人は内科や産婦人科などで相談を」と話す河村院長(広島市西区)

免疫ない傾向 30～50代男性も用心

国立感染症研究所によると、今年の風疹患者数は8月26日までに273人。7月下旬以降の増加が目立ち、過去4年の同時期の患者数を超えた。同研究所感染症疫学センターの多屋警子室長は「夏休みは人の移動が多く、感染が広がりやすい。2、3週間の潜伏期間があるので、さらに増えるかもしれない」と懸念する。13年の大規模な流行では、患者が約1万4千人にも

れといった症状が現れる。子どもよりも大人の方が重症化しやすい。

風疹ウイルスの感染力は強く、インフルエンザの3倍ほどといわれる。せきやくしゃみ、会話などによって生じたしぶきを、鼻や口から吸い込むことによつて感染。赤い発疹や発熱、後頭部や首などのリンパ節の腫

鈴峰今中医院(広島市西区)の河村慎吾院長は「職場内で感染が広がりやすい。症状が出ていない感染者がうつしてしまつてもあります」と話す。

妊娠初期 高リスク

最も怖いのは、妊娠初期の女性が感染したケースだ。風疹に免疫のない妊婦が感染すると、胎児にうつり、生まれた子どもに「先天性風疹症候群」と呼ばれる障害を引き起こすことがある。症候群は主に白内障や難聴、心疾患など。特に妊娠20週までが要注意で、初期ほどリスクが高くなる。

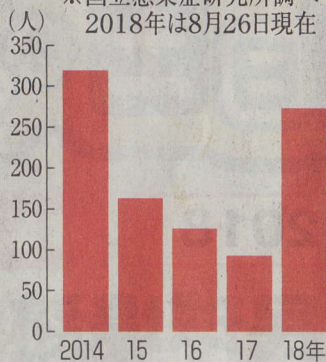
一度風疹にかかるると生涯かからないといわれているが、かかっていない人が予防するにはワクチン接種が最も有効だ。はしかとの混合ワクチンが推奨されている。費用は医療機関によつて異なるが、1回1万円前後が多い。2回接種を受けることで、

風疹ワクチンの接種状況

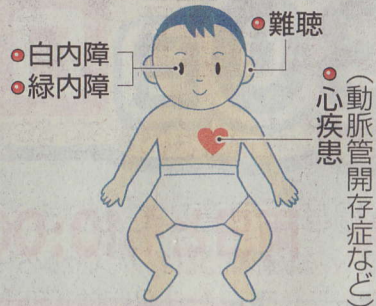


風疹患者の報告数

※国立感染症研究所調べ
2018年は8月26日現在



生まれてくる赤ちゃんがかかる先天性風疹症候群の主な症状



- 低出生体重
- 精神・身体の発達の遅れ

こども

紹の着物

気をつけて手術をし、この3、4つに唇を開いたのを見え

より、受けたい。女性接種できる。河村院長は「職場内で感染が広がりやすい。症状が出ていない感染者がうつしてしまつてもあります」と話す。